

がん細胞の番人

細胞検査士という職業をご存知でしょうか。聞き慣れない職業と思われた方も多いと思いますが、この職業は世界中で行われています。日本では約 6,000 人が、日本臨床細胞学会認定の細胞検査士資格を取得して働いています。

ところで、人間の体の中には約 60 兆個の細胞があります。それらの細胞が秩序正しく働いていれば問題ないのですが、中にはその秩序を乱し自由勝手に振舞って周囲を巻き込んでいく細胞が現れます。やがては人間が生きていくことを邪魔するようになります。これが「がん細胞」です。がん細胞をいち早く見つけ出し退治するために、日々顕微鏡でがん細胞を見ている細胞の番人が細胞検査士です。

子宮がん検診を受診されると、医師が子宮内部の細胞を綿棒で擦り取りスライドガラスに塗り付けます。細胞検査士は、これらの標本を細胞診用の染色（パパニコロウ染色といいます）で染めて顕微鏡で隅から隅まで観察します。とてもたくさんの細胞が出現しますが、異常のない細胞だけであると細胞検査士が陰性として報告します。時に「がん細胞」や「異形成細胞（がんになる可能性のある細胞）」が見られると、細胞検査士は問題の細胞に印をつけて、意見を書いて細胞診専門医に顕微鏡で見てもらい診断をお願いします。

最近、子宮がん検診で若い人から「がん細胞」や「異形成細胞」が見つかることが多くなってきました。子宮頸がんはヒトパピローマウイルスの感染が原因であることがわかっています。たとえがん細胞が見つかって初期の段階なら、子宮を摘出しなくても子宮頸部の表面だけ削り取る手術で済みます。その後の妊娠・出産に問題を残すことはありません。

しかしながら、子宮がん検診の受診率は 20%程度で特に若い女性の受診率が低いことが問題になっています。検診は 20 歳から受けることができます。子宮頸がんは検診で防ぐことができるがんです。検診に抵抗のある方も多いでしょうが、検診を受けて、自分の体を守ってほしいと思います。

女性の輝く健康のために細胞検査士は日々たくさんの細胞と向き合っています。



【中央検査部係長（臨床検査技師） 鈴木 晶子】

